大正四年七月一日發行
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可
大正四年

女子青年界

第十二巻第七號

要目

女子青年會第十二卷第七號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XII July, 1915 Number 7.

大正四年七月二十一日より
同　二十八日まで

神奈川縣。横須賀。大津。勝男館

（どなたでも御婦人方の御來會を希望す）

第十回
女子夏期修養會

申込は成るべく至急に本部へ。詳細は申越次第回答す

日本基督教女子青年會本部

東京市牛込區田町三丁目十二番地
電話番町四五六三番
振替口座東京貳參七貳參番

AMERICAN BIBLE SOCIETY

TELEGRAPHIC ADDRESS "BIBLES YOKOHAMA

英語改正譯(米國)聖書

□ルビー活字改正譯新約全書 (三寸[illegible]分ー二寸五分)

總金巾　拾錢
總皮金緣　參拾錢
上製總皮金緣　五拾錢
上製折皮金緣　六拾五錢

□ノンパール活字改正譯新約全書 (三寸八分ー二寸三分)

上製總皮金緣　上等紙 MIPHAS・ZEH付　壹圓五拾錢

□ミニオン活字改正譯新約全書 (三寸八分ー二寸八分)

總金巾　貳拾錢、參拾錢
同　詩篇付　參拾五錢
總皮金緣　紙函入　六拾錢
折皮金緣　同　七拾五錢
總皮金緣　詩篇付同　八拾錢

□パイカ活字改正譯新約全書 (四寸九分ー四寸一分)

上製總皮金緣　詩篇付　貳圓五拾錢

□改正譯英語舊新約全書は五十錢より各種

□定價表御申越次第送呈

各國語聖書發賣所

横濱市山下町五十三番

米國聖書會社

振替貯金口座 東京 壹八四壹〇番

◉御半襟と腰紐類

▲女裝の生命

▲忠僕にして忠婢

窮りなき流行界の威力は今や夏向き新柄の上に進展し、一瀉千里の勢を以て流行の焦點たる服裝より、服裝の眼目たる女裝、女裝の生命たる半襟の上に集注致し候、而して弊店は例に依り半ゑり界の忠僕、腰紐界の忠婢として精々勉强仕る可くに付陸續御用命奉希候

京

神田區一ツ橋通町十六番地

二京商店

■山に海に涼しい夏を樂しむためには
佳伴を撰擇する必要があります。

安井哲子著 **久堅町にて** 定價壹圓 郵稅八錢

新渡戸稻造博士 **人生雜感** 定價八拾錢 郵稅八錢

林静太氏譯 **婦人の典型** 定價壹圓 郵稅八錢

山川丙三郎氏譯 **ダンテの神曲**（地獄篇） 定價壹圓廿錢 郵稅八錢

杉本伊作氏著 **佛蘭西語自修書** 定價八拾錢 郵稅八錢

今や佛蘭西語の世の中なり。ふらんす語を知らざれば淑女に非ずといふ時代も遠からず來るべし。されば諸君にして若し時勢に後れざらんと欲せば須らく佛語を自修せよ。或はユウゴオを繙き、或はベルグソンの哲學に參じ、或はロオランの思想に親しみ、或はアナトオル、フランスに遊ばんとする「野心」あらば速かに佛語を研究せよ。
本書はその最も困難を感ずる發音、動詞の變化の點に充分力をそゝぎ「文字及發音」「單語及譯讀」「文法及作文」「會話」の四編に分類し、終りに「熟語及成句集」「不規則動詞變化表」をも掲げたり。説明樣式は最新の方法を採り平易簡明に講述す。蓋し本書は類書中の白眉なり。
夏季の閑日月を佛語研究に利用せよ。

發兌 東京京橋尾張町 **警醒社書店** 振替東京五五三番

會說

第十回夏季修養會

エー、シー、マクドナルド

　我が日本基督教女子青年會が主催となつて年々開會する夏期修養會も今年で第十回目になりますが、私共は年々の修養會に對して如何なる心持がするかといへば、言ふ迄もなく直ちに起り來る考は、前年の修養會に於てお目にかゝつて暫の間であつても親しく交つた友人達にまたお目にかゝつて、其後に起つた事柄について語り合つたり、又前年の修養會に於て共に聖書を研究したり、先輩の方々と接することによつてインスピレーションを受けたり、又事務的の方面にも種々の經驗を得たり、色々の有益な訓錬を得ましたことなどを想ひ出したりするのであります。けれども修養會によつて得る所のものはそればかりではありません。修養會の必要は更らにそれよりも大なるものがあるのであります。

　女學校に在學せらるゝ皆さんは、不斷同じ學校に通つて居て同じ型のうちに勉强して同じ樣な境遇の中に生活をして居られるのであります。けれども一度學校を卒業してから實際の社會に出て一般社會と同じ生活に處するやうになると、すべてが複雜になつて中々むづかしいことになるのであります。さう

なると毎日接する人々は其の考も其の仕事も違つて萬事が理想的でなく、唯普通のつまらない俗事に齷齪して居るのでありまして、私共とは種々の點に於て一致する事が出來ないやうに見えるのであります。しかし、若し私共が修養會の如き全國の各地から集り來つた姉妹方と一所に會して、互に交際したり、互に智識や思想を交換する機會を得るならば、やがて今申上ました樣な實際社會に於て活動する場合のために特別のよい經驗を得ることにもなるであらうと信ずるのであります。

また、其の交際によつて新しい友人を得て、其の親しみは、常に同じ學校に同じやうに通つて居る友達との親しみとは違つて、更らに其の考も、思想も智識も漸々に廣くなつて來る利益があらうと思ひます。私はずつと以前の經驗でありますが、始めて日本へ參りました當時は、また女學生間の交際などは餘り進んで居ない時代でありまして、或時私が主人役になつて、各女學校の學生の方々を私の宅へ招待したことがありましたが、其時に各學校といふ隔なしに打混じて一緒になつて遊びたいと思ふて、色々と骨折ましたけれども、中々私の望むやうに參りませんでした。といふものは各別々の學校からお出になつて互に知り合ひませんので、其の學校々々では一團となつて笑ひもし話もして居られましても、若し外の學校の方とならば碌に話もしなければ遊びもしないのみならず各其の學校々々で割據する風があつて丸で交際が出來ないやうな有樣でしたから、其の調和を圖ることは實に私にはいくら骨を折つても出來ないことであつたので御座いました。勿論其後だん／＼其の間隔は除かれまして、今日では私共が學生の集をする時分には何時でも學校と學校と區別は決してありませんやうになりましたことは、私の常に喜び且感謝して居る所で御座います。しかしそれは東京に於ける經驗でありますが、これを廣く日本全國に推し廣めて考へて見ますと、此の修養會は恰度それと同じ目的、同じ使命を有つものであると

思はれるのであります。即ち全國の女學生の間に存する隔を全く除去して、何等の區別なしに手を握つて樂しむやうにするといふのは、此の修養會の大なる働であると信ずるのであります。

　それから、又私共は修養會に於て僅の間でも、餘り知らなかつた人、全く逢つたことのない人などと一緒になつて、寢食を共にして生活をいたしますことは、私共の將來に取つて、どれだけ有益なものであるか知れないと思ふのであります。年中學校に在つて學生生活の中に居る方々は、毎日教師などに接する事は出來ますけれども、修養會に於ては更らにかはつた方面の經驗ある先生方と親しく交はり、僅の間であつても一緒に生活する機會を得るのでありまして、其の際に受くる教訓や感化は決して少なくないと思ふのであります。例へば私共は聖書研究を受持つて下さる先生などにはめつたにお話を伺ふやうな機會もありませんのであります。又直接に逢つて自分の意見を述べたり、それについての御考を伺ふといふやうな場合も極めて乏しいのであります。けれども、修養會に於てはそれ等の先生に親炙して何でも親しく伺ふことも出來れば、申上げることも出來て、自己の問題、自分の困難話までも申上げて其の教を受けることが出來るのであります。それは誠に得難い特別なる貴重なる折であらうと感ずるのであります。殊に先生方との間柄は師弟の關係といふばかりでなく、親しい密接な關係を有つて、其の人格上の直接の感化を受けることも亦實に得難い所のものであると思ふので御座います。それらの事によつても私共は基督に於ける生活の奧義を覺ることが出來るやうになると思ふので御座います。詰り私共は基督に於ける私共の一致といふ事の眞意が分るやうになると思ふので御座います。

　猶一の事を申上げたいと存じますが、それは本年の修養會の格言のことで御座います。先頃本年の修養會の計劃を立てるために委員の方々がお集りになりました時に、一番大切なこととして第一に相談の

あつたのは、此の本年の修養會の格言を撰定することでありました。そして祈り且考へて左の二句を撰ばれたのであります。即ち

『エホバを俟望むものは新なる力を得ん、また鷲の如く翼をはりて上らん、走れども疲れず、歩めども倦ざるべし』（以賽亞書四十の三十一）

『我兄弟よ主および其の大なる能に頼りて剛健なるべし』（以弗所書六の十）

であります。私共は此の不完全な世に處して誘惑も多く、困難もあれば苦痛もある、また疑惑もある間をどうして切り抜けて進むことが出來ませうかと申しますならば、これは神の力によつて打ち勝つ外に方法はないのであります。此の以賽亞書から撰ばれた言葉は中々面白いと思ひますが、實に私共は長い間走つて行きますならば、どうしても疲勞せずには居られません。其處は精神的の意味から考へて見ても矢張り同じ事であります、前に申しましたやうに此世の中に於ていろ〳〵の苦勞や骨折が起りまして處世上の疲勞に堪へられない場合になりますけれども、私共はエホバを俟望むものでありますならば少しも疲勞を覺えることはないのであります。此の以賽亞書の意味は此の點に在るので御座います。其の神の新しい力を得んために今年の修養會は特に力を出したいのであります。どうか多くの學校から大勢の女學生を始め、有志の婦人方の御出を願つて、此の信仰と希望の下に集りましたならば、私共は必ず其の望を充しめ給ふ神の御力が加はつて、即ち新しい生命の力を得て、今年の夏休をはじめにして一生涯を其の神によつて與へられた新しい力に充ちて人のためにも世の爲めにも神のためにも一層の働をすることが出來るやうになると確信するのであります。こゝに至つて以弗所書から撰ばれた聖句にある通り主によつて剛健なものとなる事が出來るのであります。

何卒、皆さんが今年の修養會が惠を受けて成功するやうに祈り且有る限りを盡して御助け下さらんこ

とを願ひます。皆さんがお互に學校内の知友は勿論大勢の姉妹方の御出席を勸誘して今年の修養會は未曾有の盛會を見ることが出來るやうにしていたゞきたいと思ふので御座います。

河井總幹事來信

（本信は五月二十二日發信で前號掲載のと重複する點もありますが、一切取捨せないで其のまゝ玆に掲げることといたしました）

今日は五月二十二日午前九時であります、只一時間の生命とおもひ心に浮ぶ儘を書列ねて、故郷の友に私の消息を傳へませう。實は今日は天洋丸が出帆で、其の間に合ふ樣に、一筆せんと昨夜おもひましたが、歸宅して見れば、十一時過ぎて、宿泊して居る所＝北米人の女子青年會寄宿舍＝の規則上消燈せねばならず、最早や駄目とおもひたれど、安孫子夫人が今日船に人を送るからとの御電話で、此機逸すべからず、是非一筆なりとも、認めて船内にて投函して貰はんと、慾が出て、この一時間の中に例の大急ぎて、卓に向ひました。

扨て、四月三日より十九日までの航海の事を今更繰返しては、時が不足ですから、省きますが、只船内にては手紙かきに追はれて居た樣なもの、餘は何もいたす心地せず食事も物憂く感じ、可もなく不可もなき時日を送りました。布哇にて會員伊藤くわ子姉に逢ひ、小山登をして日本の話をせしが、第一の喜樂でしたかとおもひます。十九日上陸後、直に安孫子よな子樣の奇麗な御宅に導かれ、早速日本料理の大御馳走にて、船の嫌氣を一洗されて仕舞ひ、更に元氣が恢復いたしました。御宅は大博覽會の至極附近で、夜のイルミネーションなど手に取る如くに眺められ、たゞ〳〵『奇麗ですね』を連呼しつゞけて就床を惜しむ心地いたしました。

翌日は領事沼野夫人の招待をうけ、又日本料理の御馳走に預り、それよりいよ〳〵世間に顔觸の幕となり、一週間を有耶無耶に走り廻りをして送り、廿

六日の夜行で南加州羅府に向ひました處、翌朝同市日本人女子青年會々員の多勢の御出迎ひを受け、感謝に堪えませんでした。それより市外の某女史の宅に二泊いたし、羅府に歸り大會のあるまでは、青年會の諸姉と協議や、集會や、訪問で時の經過を覺えません。愈々合衆國女子青年會第五回總會が五月五日から開かれますので、諸代表者が全州より集り先づ私もアレキサンデリヤホテルに移り、一週間を夢の如くに送りました。此ホテルには重なる委員、役員が宿泊して居られたので、私も其處に居れば彼等に接する機會が多からんとて、委員が親切に移して下さいましたのですが、何分にも大ホテル、私の室の番號が一一七七なので十階でありましたが、他の人々は何處にあるにや、見る人毎に他人で、却て親睦等には役に立ちませんでした。しかし室内に電話もあり、專用の風呂もあり、私の如き下層の者には過ぎた經驗であります。

扨て、大會は此旅館を去る三町先の美以教會に於て開かれました。正々堂々たる婦人指導者、三百人以上も着席して、協議といひ提議といひ、議論の感情的ならざる、しかも其中に確固たる主義の貫徹して、一致協力の精神を缺かざる、規模計畫の遠大にして空想的ならざる、何もかも敬服の外はありません。彼等三百餘人の各自社會の何の塲に於ても主導たるの價値を具備して居ります。其中には白髪の老婦人もあり、花羞かしき青年女子もありましたが、一日憲法の一ヶ條訂正の件になりし時は、老若共に其意見を述ぶる光景を目撃して、轉羨望に堪ず、自然と目蓋の濕ふを覺えました。協議以外には講演もあり親睦會もありましたが、これは又時を見て御報知も出來ませう。今一つ若き方々に申上ます、日本ではいまだ信者の中にも、一致協同の精神が乏しいことは誰しも認めて居ります、兎角若きときは遠慮も、羞ふも美點の一つでありますが、何か人から依賴された時は、いかに其所望が己が得意でも、嫌とか、面倒とか、人に笑はれるとかおもひ御斷りする

が普通でありますが、これは是非とも矯正をいたし度いものであります。此大會中二回程親睦會がありましたが、一度は合衆國中央部よりの代表者にて、一寸對話の如きものをして、一同をもてなしました其時に役割になりし人々は白髮の夫人三人、幹事が二人、中年の委員が四人、大學卒業仕立の青年女子が二人、加はつていたしたには又々感服いたし、いかにしても、私共年老いたるものは無邪氣に若き人々と遊び、若きものは人の批評など恐れずに、人を益し慰さめ奬勵する事に、大膽でなくてはならぬとつら／＼思惟いたしました。尤も此大會は重に、役員、委員、幹事の寄合ですから、青年は僅でありましたが、年若しとて決して他の侮を受くる如き事なく、所謂『汝年幼を以て人に輕ぜらるゝ勿れ』との敎訓を忘れてはならぬ者であると存じます。時間が短いので略して申しますと、私は大會後即ち五月十一日の午後、羅府附近の田舍廻を三日間いたし實に面白き經驗をいたしました。婦人の働の多くある事をおもひ、いかにも等閑に附し置くべからざる點を數々知りました。次號に田舍に居る同胞姉妹の事をかきませう。十三日の夜行でアシルコーとて桑港より數時間なる、修養會の地に參り太平洋の波音に松風の合するをきゝて、故郷なつかしく存じました、此處では幹事達のみの三日修養會で非常に得る處がありました、此處に日本からの手紙が廻送されてあり、白砂靑松の下に日本の方を眺めながら皆々樣の音信をよみました。閉會後又桑港で此市の日本人女子青年會の擴張のため所々の名士を訪問して居ります。博覽會内には一寸這入ましたが、見物はまだいたしません、某統計表が入用で、敎育館に一寸這入ました處、英學塾からの出品即ち彼の屛風に、塾長の御寫眞、生徒諸君の作文等が私を笑みつゝ迎へて下さいました。なか／＼異彩を放つてゐますと中桐先生に御傳言を願ひます。

日本でも忙しいと思ひましたが米國では何でも忙しいに比例して私も多忙で御座います、手紙などかく時も殆どありません、旅行になれてゐるが幸ですが、氣の落ち付く如き事は決してありません、今來客、最早擱筆の時間、なさけないですね、私は又羅府に行き、六月廿日頃にはシヤトル市にゆき其附近の修養會にゆきます、次の便には委敷く書けませう。

社會の改善と婦人の責任

安部磯雄

過日女子青年會の前年度の事業に關する報告書を見ましたが、中で最も私の注意を引いたのは、停車場に於ける『旅行者の爲の働きであります。其美しき活動の爲に非常に感服したのでありますが、其の内から又更に一つ注意すべき問題を見出したのであります。それは次の樣な話があつたのであります。或時東北地方より一人の男子が五人の女子を伴れて上京したのを、係の方が見出され早速警察に屆出た處が、其時其男が女の親達の承諾書を持つて居た爲、警官も如何ともする事が出來ず、其の儘に見過したといふ事でありました。これは考へねばならぬ問題であります。凡ての事業の根本に邪魔をして居るものは法律であります。民法に對しては吾々男子と雖も如何ともする事が出來ないのであります。慈善事業其他各種の事業も全く法律に關係のないものはありません、そして法律は吾人の自由になし能はざる處であります。彼の矯風會の働きに於て見ても其困難なる事は明かであります、同會は矯風に關する凡ての法律に於て、男女同一の權を與へられん事を望んで居るのであるが、其提出は幾年たつても通過せず、同じ議論を繰り返して居るばかりであります、故に餘程の忍耐を有するにあらざれば、この一つの問題さへ解決する事が出來ないのであります。

斯くの如く凡ての事業の其根底まで切り開いて行く事の出來ないのは男子の我儘に起因する事が多いのであります。現今の日本の道徳の腐敗は主として男子の横暴によるものであります。この腐敗を改善するには、どうしても女子の力が必要であります。

女子がこれを社會の常として見過すならば、何時になつてもこれが改めらるゝ時は來ないでありませう一國の君主と雖も、若し橫暴を極むるならば、それは國民の爲、又君主自身の爲めにも禍であります。故にこれ等を制限するために、又人民を保護するために立憲政體が生れるのであります。君主を諫めるこれ不忠ではありません。これに反抗する事は、基督敎の主義とする處ではありませんが、赤心を以て諫むる事は當然なすべき事であります。これと同樣に親切なる心を以て男子の我儘を放棄せしむるは、實に婦人の責任に外ならないのであります。日本の男子は今決して幸福にあらず、凡そ自分の我儘を通して居る時が最も人の不幸な時である事を忘れてはなりません。故にこゝに女子が立つて、これと戰ひこれを救ひ、男子をして眞に幸福なるものとならしむべきであります。

今日は何れの國に於ても、女子と男子とが同等の敎育を受ける事は普通の事となりました。日本に於ても東北大學の如き、女子の入學を許可した例もあるのであります、然し今より五十年百年の昔に溯れば決してかゝる狀態ではありませんでした。亞米利加に於て、オベリン大學が女子の爲めに開放せられたのは一八三三年卽ち今より八十二年以前でありました。最初に入學したのはルシーストーンと云ふ婦人でした。其入學の目的が又面白いのであります。其の婦人が舊約創世記を讀み、其三章十六節に神がエホバに向ひ『彼は汝を治めん』（彼とはアダムを意味す）とあつたので大變快からず思ひ、これは女子を侮辱する言葉である、必ず何かこの言葉に間違があるに相違ないと云ひ、それより原書をしらぶる目的で、ヘブライ語、ギリシヤ語を研究するために其大學へ入學したのださうであります。當時はなほ亞米利加でも男女同等の敎育を受ける事は出來ませんでした。現今女子敎育がかくまで普及した事は誠に喜ばしく、意を强うするところでありますが、なほ一歩を進めて經濟的方面に吾々の眼を轉ずる時は

まだ〱男子と女子とは同じ位置に置かれて居りません。例へば學校の教師にしても、男子と女子とは同資格を有するにも不拘ず俸給は違ふのであります而して世人はこれを當然の事として是認して居りますが、これ實に不公平な次第であります。これも早晩同等にならねばならぬ問題ではありませんか。

次に法律上の問題に來るのであります、此處に於ては殊に男女の懸隔は甚だしいと云はねばなりません、近來の婦人參政權運動の如きも其の淵源を尋ぬれば非常に同情し感服すべきものがあると思ひます男子とて若しかゝる境遇に置かれたならば、必ず同様の運動を起さずには居られないでありませう。今日オーストラリヤにては婦人も參政權を持つやうになり、亞米利加にても既に十一二州にこれが認られるやうになりました、日本では未だ何時其の時機が來る事であるか豫期する事は出來ませんが、凡そ選擧權は凡ての人が持つべきものであります。現今に於ては男子すらある一部の人のみが有するのであつて一般人民の上にあるのではありません。貧者はこれを有し得ないのであります、さればかゝる社會に婦人の參政權問題などは勿論容れられる餘地はないのでありませうが、これは確かに來るべき時代の問題であります。ニユージーランドに於て非常に美しき政治の行はるゝのは、凡ての人が參政權を有するからであります。女子と雖も四年に一度唯二時間の時を選擧のために割く事の出來ない事はない筈であります。今日行はるゝ戶別訪問の如きは全く選擧に對する意義をあやまれるものであります。今日これを御話しするのは十年二十年後の事を慮る故であります。理想を作るためであります。

近頃新らしき婦人の運動の如きは一面、面白い處がないではないが、唯無暗に男子に反抗するを以て目的とするが如きは、全くこれに同意する事の出來ない處であります。自由黨は政府に反對するもの、新らしき婦人は男子と爭論するを目的とするものであると云つても決して過言ではないでせう。この時

キリスト教を信ずる婦人は如何なる主義で立つべきでせうか、即ち眞實なる心を以て男子を助け、且清むる事が、其の使命であります。愛を以て立ち、愛を以て社會改善のために戰ふ事であります。此決心にて進みさへすれば必らず後に來るべきものは希望と光明とである事を疑はないのであります。

活動の基礎

金森通倫

過日ジャンダークの傳を讀んで居りましたが、彼女は千四百年代にフランスにて非常な働をした一少女でありました。自分の家を後にして都に行き、當時將に陷られんとして居た、オリヤンズを立たしむるために、自ら軍隊を率ゐて其地に至らん事を王に願つた。無學なる農家の十七歳の一少女がかくの如き大膽不敵の請願をしたるにより、彼女が普通の人にあらざる事を知る事が出來ます。併し不思議にもこの願ひは許されて愈々ブロイスに於て兵を集むる事となりました。此地は實に云ふ事の出來ない程風俗廢頽して、醜業婦あり、博奕あり、全く地獄のやうな有様でありました。此處にジャンダークは大膽に入り第一に惡人の首領たるヒレーに祈りをする事を教へました、而して其ヒレーを率き連れて軍隊の中を巡回し、唯三日の中に全く其町を清めました。昨日までの地獄は今日の天國と變りました。これ果して何の力によるでありませうか、私共は凡て有らん限りの力を以て社會の改善に盡し度いと思ふのでありますが、婦人は殊にこの方面に責任を持たねばならないと思ひます。ジャンダークは婦人の典

型で凡ての婦人はこのジャンダークの如くなり得る要素を有して居るのであります。婦人は天使ともなる事が出來、又惡魔の子ともなる事が出來るのであります。天使たる事が婦人の理想ではあるまいか。
婦人は如何なる處に多く力を表はし得るであらうか、現今に於ては教師あり、役人あり、事務員ありと云ふ風で、實に立派な働を表はして居るものが澤山あります。今後もます／＼廣く各方面に道が開かるゝ事であらうと思ひます。しかし今日私の望むところは宗教界に於ける婦人の活動であります。救世軍は今や五十八個國に亘つて其活動をなし、三十四ケ國語を使用して居るが如き世界的團體でありますが、其歴史を問へば僅かに五十年に過ぎません。ブース大將は其創立者でありますが有名なるステット氏の評によれば救世軍は大將の力のみで生み出されたのではない、ブース夫人によつて生れたのであると。今日に至るまで救世軍に働く處の人の數は男四分女六分の割合であります、而して凡て同權同義務、同責任の下に活動して來たのであります。男子か路傍演説をすれば、女子もこれをする、これはブース夫人が始めに主張せられた主義であります。故に今日に於ても男女は全く同等に士官にもなり、旅團長にもなり、師團長にもなる事が出來ます。今後に大將たるべきは婦人であるとの評判さへあるのであります。

何故に婦人は特に宗教界に立たねばならないのであるか、それは男子の到底及ばざるものを持て居るからであります。ジャンダークは決して人を切つた事もなければ、刀を磨きもしなかつたのです、而かもかくの如き勝利を得たのであります、宗教界に於て最も大切なるは愛であります、これはコリント前書十三章に明らかに示してありますが、この點に於て男子は婦人に及ぶ事が出來ません。愛が宗教の立場であるならば、即ち女子は此點に於て男子に勝つて居るのであります。第二に忍耐力に於ても、第三柔和なる點に於てもそうであります。第四には信仰

神に己れを任せる事『我最早や生くるに非らず、基督我衷にあつて生けるなり』と云ふ信念であります全く自らを神に捧げ得る事に於て、女子は優つて居ります、又第五に感化力をも婦人は多く有して居ります、如何に亂暴な男子と雖も婦人の前に出る時は自ら愼み深くなるものであります、婦人が此等の多くの美點を發揮する時は男子の到底及ばざる力を出す事が出來るのであります。イヴア、ブース夫人が英國に於て曾て六千人の聽衆を泣かしめた事があります。其熱情によつて或る時は男子を凌ぐことがあるのであります。救世軍に於て見るも女子が男子を率いて指揮する有様は弱き男子には能はざる程のものがあります。

今日女子の前には大なる活動の舞臺が與へられて居ります。社會を淸めんとならば家庭をも淸め、教育界をも、政界をも淸めねばならないのでありますが、今後は特に宗教界の眞の力が婦人によつて占められたいと願ふのであります。聖書を教へる事が出來るならば、牧師にもなり得る筈であります、説教をもなし得る筈であります。ブース夫人は大將が病氣の時は四人の子供を持たるゝ身ながら、自ら大將に代つて説教をせられたのであります、而して乳を呑ませる時、或は臺所で働かるゝ時に其準備をせられたのでありますが、或る人々は大將の説教よりも夫人の話を喜んださうであります。救世軍に於ける婦人の働を思ふ時は、其他の宗教界に於ける女子の活動の範圍が非常にせまい様に思はれます。即ち婦人が餘り遠慮をしすぎるのであります、今少し自重し自信を以て立たねばなりません、自ら進んで命がけで懸らねばならない。ブース夫人がある時貴婦人仲間の會合を開かれた時、會の後に十八才位の一少女、夫人に問ふて『先頃求めて居られた癩病島へ行く人の候補者は未だありませんか』と、而して未だないとの返事を聞き、然らば自分が行き度いと申しました。貴婦人にして年若く婚約まである身を以て其凡てを捨てゝ行かうとするのは、何によるのであ

りますか、全く信仰によるのであります。キリストの如く身を以て人を救はんと願ひ、十字架を負ひて立たんと切に望んだのであります。これは本氣であります、片手仕事ではありません命掛けであります救世軍もこの半死半生の境を越えねばならないのを覺悟しながら進んで居ります、この腐敗せる社會を救ふには普通の力ではなし得ないのであります。私共は今少し眞面目にあり度い、殊に婦人は其命掛けになつた時非常な力を表はし得るものであります、或る一人の救世軍の婦人は其赤心溢るゝ祈りの力にて一人の酒に溺れたる惡漢を救ひ、神を知る人とならしめた美しい話が英國にあります。

今後の活動の基礎は信仰にあります、終りまで忍ぶの決心を以て當らねば勝利は得られません、ジャンダークは自分の命は殘る處一年なりとし其間に凡ての働きをなさんとの一大決心を以てなしたるにより、斯る大なる働きを殘すに至つたのであります、今日の一大缺陷はこの命掛けの熱心の足りない事であります。

吾人の機會

植村正久

（馬太傳第九章三五―三八朗讀）

これはエスが諸方を巡廻せられてよく社會の模樣を見られた所が、道德宗教の有樣は總て憫むべき狀態でありましたといふ事が書いてあるので御座います。即ち今日吾々が日本の社會の樣子を見ても家庭の事、教育の事、政治上の事は勿論、何でも詳さに

内部の様子から外面迄よく研究すると、矢張同じ様な感がする遍く都邑を廻ると道徳も宗教も餘り荒れて居て飼ふ者なき羊、捨放しで誰も之を養はない。丁度日本の様子も飼ふ者なき羊 纏 のない、實に困つた有樣で誰も之を世話しない、どんな學者でも世話が出來ないのである。併しもう一面から考ると働き人のない收穫場であります。畑はみのつて居つてたり、穗は風に畝を打つて居つても、收穫る者がない、この事は大變賴もしい有樣をあらはして居るのであります。飼ふ者なき羊は憫れな有樣であるが、一方考へるとみのつて鎌を入れる計りである、大變賴もしい、相當に收穫をすると充分益する樣になる。誠に人意を强うするわけで、之がやはり日本の有樣であるのであります。今日協同傳道で人心は引き立つて居ります、日本の國民の 魂 には確に神に從ふ心はあるので、宗教心は割合に深い、感は鋭敏である。旱に雨を待つ如くで導かれるならば入らんとする有樣で、之が收穫多いと云ふ言葉の意味になるのであります。飼ふ者なき羊、ちり／＼になつて居る羊の如きでは、手の附け樣がないと感じるかも知れぬが、基督教は決して悲觀しない、又みくびらないのであります。之は適當に導くならば神の子供として、立派に育つ者だと云ふ信用を置くことが出來るのであります。

先日歐洲の戰爭の事を新聞で見ると、此頃は皆戰場に出て居つて畑をする者がないから、其儘放つて置くと云ふ事だが、丁度そんな者で手を入れないで置けば風が吹いたり、雨が降つたりして散つてしまふので、實に惜しいことである。此の有樣をエスは見給ひて憐まれた、唯困つたと涙を流して弱はられたのではなかつた。基督教はもつと勇ましい、勇氣のある、盛なる、然も樂天的で何處迄も之をやりつけねばならんと云ふ勇氣がある。

『收穫は多く工人は少し』どうか飼ふ者なき羊を世話する樣に、また手を入れずに置くと蒸れたり、散つたりしてしまふ事があるから、これを收穫する

爲にどうか人が出來る樣にしたいものであります。今日では、日本の他の宗敎の專門家色々あるが、どうも道德上、宗敎上の樣子は、何とも仕樣がないと云ふ有樣であるに、この責任を重んじて立つのは、基督敎の人あるのみで、これはどうも放つて置けぬ是非責任を以てやらねばならぬ事で、今日この會場に於て正しくエスの言葉を拜聽する心地がするのであります。この日本の國を救ふには、どうしてもこれを男子のみに托して置くことは出來ぬ、キリストを愛する婦人は、老たるも若きも、それぞれ働かねばならぬのであります。未一二年ではあるが婦人傳道會社が出來て、畑なども手を入れられて居るし、迷へる羊なども相當の居場所に歸つて來ると云ふのは、實に喜ばしい話であります。婦人のキリストより與へられたる機會は責任であり、義務であるのであります。

今日婦人はこの最も貴き機會を神より與へられたのであります。日本に婦人の事業多く慈善事業の如きも隨分澤山あつて皆結構であるが、これは世間にもやる人が澤山あるが、靈の仕事は誰が爲るのか、之は信仰ある人のみであります。私考へるに、最も大切な靈を善するキリストの福音を傳へる事が今日の取る可き事、又これは日本の婦人にとつて非常の進歩と思ふのであります。婦人傳道會社がこの方面に働かれるが、これは日本の敎育進歩にとつて非常の發達と思ふのであります。吾々は飼ふ者なき羊を主に歸らしむるのみならず、婦人の地位を高め社交的の考へを以つてすゝめると云ふ事が必要であります。私は斯樣に組織立つて働をすることが必要であると思ひます。大に祈つて今一層キリストの爲に努力する所ありたいと思ふのであります。（婦人傳道會社總會にて。文責在記者）

如何に此の夏を過すべきか

松宮生

學窓の下に勉學して居られた姉妹方は、秋から冬、冬から春と過ぎ行く中に、いつしか夏となり、今や夏期休暇の時期に入つて、何れも滿腔の歡喜を以て都門を辭し、或は親しき友と携へて綠陰涼風の山邊に赴き或は師の君に伴はれて濤聲洗熱の海濱に遊び、或は懷しき慈父母の家に歸省して、愉快なる生活の中に、此の幾十日を送らるゝことであらう。實に夏は愉快な時期であり、また慰安幸福の期節である。

しかしながら、此の夏を以て徒らに骨休めの時とのみ考へて、空々寂々何等なすなきの中に過すことは、私共に取つては決して本當のことではない。否、世には斯く考へて斯く過すものが多いとしても、少くも我々に於ては決して斯く無意義な夏を送るべきでない。

人はよくいふ、『夏の休養』と。此の『休養』といふのは萬事を打棄てて何の爲すこともなく徒らに惰眠を貪つて休むことと思ふならば、蓋し大間違である。有體にいへば私共には年中休むといふ時はある筈はない。基督は『我父は今に至るまで働き給ふ、我も亦働く也』と仰せられたが、それは私共に於ても亦然かするべき筈である。『休養』といへば一面は休むこともあるに相違ないが、しかし唯『休』だけでなく『養』にも氣をつけねばならぬ、徒らに休むのでなく、一方に休むならば更らに他の一方に養ふ所がなくてはならないのである。茲に始めて休養の主義が全く且明になる。

私共の肉體の健康は胃の健全によつて保有されることは言ふまでもないことであるが、其の健全な胃は年から年中、胃に食物を送り通しにすれば、漸々消化力が弱くなつて、終には病氣を起すやうになるからどうしても十分に其の働を休ませる時間を要するといふことである。けれども所謂其の働を休む時

間は全く何等爲す所なくすべてを休止して居るのであるかといへば、それは決して胃の活動を停止して居るのではなくて更に消化のために肝要な準備的活動をやつて居る。即ち消化に必要な胃液の分泌を盛にやつて居る。直接に食物を消化することは休んで居ても、更により以上の肝要な働に從事して居る譯である。これは私共に對して適切な敎訓を與へるものでありますまいか。

私共に此の夏を與へらるゝことは恰度胃が食物の消化を休止して居る間に胃液を分泌する時間を有つやうなものである。私共は此の夏の期間に於て十分將來に對する元氣を養ひ、學生としては新學年に於ける向上進歩の基礎を作らねばならぬと思ふ。規律ある生活より離れたる自由を濫用して、不規律なる我儘なる惰弱なる生活に陷らないやうに注意して、却て此の自由によつて修養を積むやうにせねばならぬと思ふ。

如上の理由によつて私の切に望む所は、此の夏休の間は各適當な働に從事して決して茫然として過すやうなことのないやうにするに在る。例へば、郷里に歸るとすれば、其の敎會の集會を助けるなり、日曜學校を敎へるなり、傳道なり訪問なり、それ〳〵に適當なる道を開いて働を取るやうなことは、實に夏の休を利用する外には得難い經驗であらう。又例へば山に海に、俗界の俗事を離れて神の御業を味ひ人知れず恩を天の彼方に馳せてはぐゝまるゝ天父の慈を謝し且祈るやうなことも、實に夏の休を利用して得られる經驗ではありますまいか。

又、學校生活の如きは、どの方面から考へて見ても單調な生活である。けれども社會一般の事に接して見ると斯く單調ではない。普通に其の單調な生活から一足飛びに複雑な社會に出るので、種々の矛盾を見る、種々の困難に逢ふ、誘惑に逢ふ、處世難に泣くといふ様なことになる例は決して少くない。此の方面から見ても夏休は當に此の複雑な社會の生活や狀態を視察經驗する最良の機會であるまいか、同

時に此の社會に處する實地の練習をなす好適の場合であらう。例へば家事向の萬事、勝手元の世話、炊事の手傳、來客との應對、近隣や親戚などの交際、乃至は一般の世事に關する事などに就て、萬全の修業は出來ないとしても、大に修得する所があり得られると信ずる。私の見る所によると學校生活に於ては餘りに世間の一般事に慣れる機會を得るに乏しいことは誠に殘念なことである。此の缺陷を補ふべき活ける修養は、恐くは夏休を活用するに若くものはなからう。

要するに、夏期を以て萬事を放擲して休む時とするは誤りと思ふ。私は諸姉が今暫く都門を去つて居る期間を善用して何等かの新しい經驗と修養を得て將來活ける社會に處するの素地を作り更らに今秋後に於ける活躍の英氣に滿ち再び都門に入來るの日を待つものである。

ワシントン見物

米國　加藤高子

只今汽車中でこの手紙を認たゝめて居ります、もう卅分でワシントンに着きます、ボルトマーまでもう一人友達が來ましたが、其の人は既に下車しました、馬鹿に寢むけがさして變な心地でしたが、窓をあけて生き歸へりました。當地の春の心地よき殊の外に感んじます。ニユーヨークからの旅は川が幾つもあつて美しい場所を通りました。この休暇には學校に殘るものは半分もなく、皆出かけました、私も嬉しくて〱感謝して居ります、米國の首府を見るのですから。彼の地に御出での川島春子樣にも是非是非御目にかゝりたいと存じて居ります。

赤毛布の都見物ですからなか〱面白い事が澤山あります。十八日の午後六時にユニオンステーションに着きました。其建築の大と美とに氣がとられて

大きな口を第一番にあけました。東京の新停車場はどの位か知りませんが、流石に都府だけあつて大きなものであります。歸途の時間や切符の始末を付けて町の方へ出かけましたが、其市中の繁華佳麗を極めて居るのにはおどろきました。停車場前には大きなコロンバスの銅像があつて、ニューヨーク市から來た私共には空が高く廣く見えました。右手には郵便局がありましたが、この様な公共建築物は皆平屋根の鼠色で、餘り幾階もと高く建てられて居りません。其の上凡てが調和して居ります。局内に入りまして安着の手紙をかき、いよ／＼宿りやどに出かけまました。面白い事には局とステーションとは橋で續いて交通運輸の便が密接に出來て居りますのです。黒坊さんが流石にワシントンの感化とおもはれる程親切でありました、宿は極小さい處ですが心地よくさつぱりして居ります。扨て一寸身仕度をしてから手荷物を殘し置き食事に出かけました。それから其の晩を公衆圖書館で暮しました。ニューヨークの建物が立派と思ひ、ボストンを見物した二人の友達はボストンの圖書館におどろいたのですが、此所に來ては又其の上の驚きで御座います。六千萬弗で十ケ年を費して出來たさうですが、殆ど全體が大理石で出來て居ります。床は又剪嵌細工、梁口は繪や彫刻が施してあるのですが、私には其の偉大な建築美の調和、趣向の嶄新で奇拔な事は云ひ表す事が出來ません。閲覽室は實にたまらない程立派です。八十萬卷の本があるとか、とても忘れられません。

十九日は面白い事、徒歩で見物しました。市内は誰も急いて居る人がない、氣がゆる／＼します。これがニューヨークならつひ群集につれて大足で歩きますものを、公園を歩き廻はり、大統領官舎の白館に參りました。紹介狀があつたので一般の觀覽者以上に大きな食堂、三つの居間などを見ました。食堂では一度、晝飯の仕度をして居りましたの、一人の友達は銀器の盜人と間違へられて、テーブルに近づくなと大きな聲でいはれました、其の人は其樣子

を見度くて近くに行きましたので案内者さんとんでもない失禮なやり方をしました。東間と云ふのは多分大統領の令孃の結婚式があつた處でせう。實に黃金色盡しで煌々と立派です、夜燈りのついた時はもつと立派でせうと思ひました。ウヰルソン大統領に逢ひ度いものだなど丶冗談を云ひながら、其處を去りました。極單純な質素なものです、實はもつともつと大きいものと想像して居りました。青年會でお晝をすませ、合衆國々會議事堂見物、市内を見晴す高い〳〵處にあります。入口にはコロンバスのアメリカ發見とインデヤンの保護をして居るのと二つありました。内の様子は唯おどろくばかりでした。議場を二つ見ました。それから澤山〳〵の彫像やら、天井の繪や何かで案内者に二十五錢拂つて出かけました。處が雨がジヨボ〳〵降り出したのですが植物園を一覧し、それから博物館を見物。そして茶をのみ家にかへり、卅分間休みましてから又出かけましたのは川島春子氏の御宅へ御馳走のおよばれにです。

面白い事が澤山あります、恥しい事は市内になれないため二十五分おそくなりましたが、流石の春子氏なので初めから心地よく愉快に一夜を遊びました。日本食も西洋食も兩方でしたが、私は洋食には目もむけませんでした。御子様の信一さんが殊に可愛らしくて一寸も人見知りをせず實にい丶御子様でした他の友達も出來ない經驗をして大層の悦び。歸宅は川島御主人に自働車で送つて戴きました。

是から廿日の事、ワシントンの昔の住居を見物に參りました歸途電車を待つ間に書き出したのです。昔風の居間から食堂、臺所又古物など皆整頓してあります。又廣い〳〵地所を其のま丶になし置き、墓地は極質素な煉瓦でたて丶ありましたが、殊に愛國心を鼓吹して居ります。丁度日本の客引きの様に黒坊さんが鷄料理に客を引いて居ます滑稽さ！、それから私は誠に味のよい鷄をいたゞきまして今歸へる處です。今はワシントン府の或カーフエーに居て夕食の席ですが、來るのをまつ間に！。ヴーニン山か

ら電車で軍人の墓地に參りましたが、美と云ふより戰爭の恐ろしさを現はして居りました、場所は廣い〳〵山地で眞實にもう一二週間で芽が皆出るばかりでした。もう疲れてクダでしたがリンコルンの最後に殺された家に色々古物を殘し、陳列してありましたので參り、面白い時を過し今此處に來ました。食後或建物に電燈がつきますのを見に行きましたら夏でなくては付かぬとて、落膽失望して歸へりました。

三月二十一日は日曜日ですが、教會前に墓地を見に行きました。銅像の三つが如何にもよく出來て居りました。それから一人は教會に行きましたが、私ともう一人とは動物園の猿を見に行き實に面白い時を過しました。それから電車を乘りちがへて餘計な賃錢を拂つたりなどしてワシントン記念塔見物に出かけました。五百五十五呎の中に昇降機があつて上りましたが窓から見下した市内の美觀！言葉に云ひ盡す事が出來ません。塔内には各州からの寄附の記念碑がありました。此處を出て繪書の陳列館に行き後青年會に立寄て、國務卿ブライヤン夫人の聖書の組に廿分程居て伺ひました。それから圖書館に行き首のいたくなる程上を向ひて、色々の表號をながめましたが、あまり疲れを覺えましたので少し休み生きかへつて、食後教會に行きました。十時半に停車場に來て、寢臺車に乘り、今朝七時にヒラデルヒヤにつき、朝飯をすませ、大騷ぎをして電車の便をかり、別のステーションに行き、二時間を經て、アトランテック市に來ました。極くハイカラの避暑避寒地を見物し、丁度學校の友達が居りましたので一緒に海岸で遊び、大變樂しくして午後八時頃かへりました。ひき殺されさうな雜沓のニユーヨークにかへりまして、食事をすませ、部屋にかへりましたのは十時でした。誠に忙しいが面白い四日間を過して感謝に滿ちて居ります。

主の姉妹

井上千歳譯

『それ我神の旨に從ふ者は……我が姉妹なり』

若し主エスキリストが私共に斯ふ言ひ給はざりしならば、私共はかゝる名譽を想像する事だに出來なかつたでありませう。私共は主の僕、主の弟子、又主の臣民であるとは思ふたでありませうが、主の姉妹であるとは？　けれ共主自ら神の御旨を行ふ者はこれを主の姉妹の如くに視給ふと仰せになりましたので、私共はこの偉大な眞理を悟り、これを心の底に秘めて置く事が出來るのであります。

然し私共は祈禱會員として、この名譽に應ずる丈の行爲をして居るでせうか。偉大なる友であり又、兄弟である方に何處か似て居る點があるでせうか。話をしても、一寸會つても、又其の人を思ふても、其相手にキリストを想ひ起させる樣な、家族的類似點があるべきであります。ギデオンがゼバとザルムンナとに『汝等の殺せしは如何なる者なりしや』との問を發しました時、二人は答へて『彼等は汝に似て皆王子の如く見えたり。』と言ふたのを御存知でせう。

さて私共をよく知つて居る人即ち家族の者、同勞者、或は私共の平常を熟知して居る人々に、誰かが私共の人となりや操行などを尋ねました時、彼等は何と答へるでありませうか。『あの人の樣子も、話も行爲も皆王の王たる者の妹として恥かしくない者である。』と答へられる事は難かしそうに思はれます。そしてむしろ彼等はこんな事を答へはしないでせうか、『彼女は自分勝手な事をして居る間は、ほんとに愉快げにして居る人である。』とか、『もう少し我儘でなかつたら、何か役に立つ人であるが』とか、又『少し慇懃でない事と、同情心に乏しく、利己主義で他人を押しのけると云ふ事とが實に惜しい事である』と。

斯ふ考へて見ますと、私共の中に『あの人はキリ

ストを想ひ出させる人である』と云はれる者が幾人あるでせうか。然しこれは出來得る事であります。
一日或る婦人が宅を訪問し、數時間話して居りましたが、其人は歸られた後に、何とも云ひ得ない香しい記憶を殘して行かれました。これは彼女が云つた事の爲ではありませんでした、即ち彼女は宗教的の話などは少しも致しませんでした。けれ共其婦人の人格そのもの丶故でありました。而して私共は其の時は氣付きませんでしたが、後に天使をもてなして居つたと云ふ感じが致しました。そして其婦人に逢つた爲に、もつとよいそして高められた人間になつた樣な氣が致しました。私共は其婦人を取圍んで居た美しい爽快な空氣のために、キリストに屬して居る者をもてなして居ると云ふ事を、慥かに知る事が出來ました。彼女は申すまでもなく、常に主と共に生活して居りましたので、其類似點を得る事が出來たのであります。
キリストとザアカイが對座して居た數分間に、キリストは如何なる感化を彼れに與へられたかを、考へて御覽なさい。ザアカイは金錢を愛し不正な手段を取つて迄も、他人からこれを强奪しやうとした、守錢奴でありました。然るにキリストに御目にかゝるや、その瞬間に、其場所で、大なる決心をなし、『主よ我所有の半を貧者に施さん若しわれ誣訟て人より取りたる所あらば、四倍にして之れを償ふべし』と申しました程に、感化を與へられました。そして後は『取る』代りに『與へる』と云ふ事を始めたのであります。
迫害者であつたソールはキリストに逢ふて以來、私共の熱望するポーロとなり、彼の大いなる望は、掃殺に反し、救濟と云ふ事で御座いました。又惡鬼につかれて到底手におへないと人々から見放されて居つた人が、キリストに逢ふた後は、衣服をつけ落付いて、靜かに坐して居りました。この樣にして神の御旨を行はせる程に、全く其人を變化させて仕舞ふ事の出來るのは、私共の友であり、又兄弟であら

せらる丶方と、交誼を結ぶ事により、始めて完成せられるのであります。そして主と共に居れば居る丈一寸逢つても主を想ひ起させる事が出來る程に、神との類似點を得る事が出來るのであります。キリスト教生活の眞の理想が實現されました曉には、私共が他の人々に接した時、キリストも私共と共にありて、而かも神の現在が常に賦與する平和と勇氣と希望とを、持つて來られると云ふ事を相手に感じさせる事が出來るでありませう。

私共は主エスキリストの姉妹としての資格を有するには未だ前途遼遠である事を痛切に感ずるのであります。それ故此の月は特に「主の御旨に從ふ者を主の姉妹として、御教へ下さる。」と云ふ事を忘れない様に、又主に屬する者としての價値ある行爲をなさしめ、且私共が神を、まのあたりに拜し、眞實に神に似た者となる事の、出來る大いなる日の爲に準備をなす事の出來る樣、祈りたいと望みます。

基督教女子青年會所屬好友園の午後

まさこ

炎熱蒸すが如き夏の或る日、午後四時頃基督教女子青年會所屬幼稚園なる好友園を訪問いたしました例の通り小石川金富町の坂を上りつめると、眞先にお馴染みの黒い板塀が私を迎へてくれました。やがて小さい門を潜れば、最早や幼稚園は退けた筈であるのに、二十五六名の愛らしい子供等が嬉々として遊んで居るのに驚かされ、一寸判斷に苦しみました然しよく考へて見ると、この日は丁度火曜日で幼稚園の御庭を近隣の子供等の娯樂のため、自由に公開する日であつた事を思ひ起しました。よく周圍を見廻すと、一人の先生が子供と一所に雜り、遊び戯むれながら監督して居られました、子供は十二三才を頭に三つ位迄の者で、中には兄さんなり姉さんなりが多勢其弟や妹をつれて遊びに來るのだそうで御座います。ちつと見て居りますと、或る者はブランコ

にのり、或る者は砂箱の傍で砂いぢりをして居ります。又鬼ごつこをしたり、糸とりをしたりなどして年上の者も年下の者も皆一所に、誠に仲好く遊んで居ります樣子は誠に愛らしい美しい光景でありました。

この子供等は普通ならば、路傍に遊び通行人の妨げをしたり、たへず自轉車、人力車、自働車等に觸るゝの危險に出逢ひ、或ひは色々の惡戲をなして樂しんで居る者でありますが、此幼稚園の御庭にきて居れば、至極安全で惡戲もおぼえず樂しく遊ぶ事が出來るので御座います。それ故子供等は皆嬉しげに安心して短時間ながら樂しく過して居る樣子が好く見うけられました。

彼等がかうして遊んで居る間に、著しく私の興味を引いた事は、ブランコに乘るのに決して子供の通弊である我儘を出して、他人などには一切御構ひなく、自分のみが一人いつまでも乘つて遊んで居ると云つたやうな事は毫もなく、皆代る／＼誠に仲好よく遊んで居つた事であります。普通ならば決して他人にも自分の好む物を讓り、共に樂しむと云ふやうな高尚な思想などは、彼等に望む事は出來ないのでありますが、流石に幼稚園の御庭に來ては、子供心にも何となく氣が締つて、見苦しい振舞などは、避けるのであらうと思はれ、今は極些細な事でありますが、是れが積り積つて習慣をなした時には、如何に好い結果を來すかを、思はざるを得ませんでした。

裏の花壇に子供と一所に行つて見ましたが、さゝげ、朝顔、鳳仙花、金蓮花、其他色々の花や野菜が處狹きまでに、蔓張つて勢好く成長して居りました是等のものは皆保姆の先生と子供達が一所になつて男の子が耕せば、女の子は土を細かくくづすと云ふ風にして、種を下し、或は苗を植えたものだそうであります。さゝげなどは最早や實を結んで、養老院等三四軒にお贈りしたとの事でありますが、未た々々澤山ついて居ると云ふ、大成功であります。これ

につけても保姆の方始め、小さい子供達の愛らしい丹精のほどが好く忍ばれて嬉しく思ひました。これまでは自然界などに對しては、全く無頓着であつた子供が、これにより、草花を愛し、これを培ひ養つて居る間に、自ら自然を味ひ、其の人も温順に優雅になり、高尚な趣味を養ふ事が出來るのは疑もない事と思ひます。

やがて五時を報ずる砲兵工廠の汽笛が一聲高く響き渡りますれば、今まで夢中に遊んで居た子供等は皆遊びを止めて、てんでに箒を持ち御庭を掃き初めました。或る子供はブランコの網をはづし、或る者は小さなベンチを片付け、砂箱の砂を篩ひ、元の蓋をするなど、片付けに取りかゝり、なか〳〵忙しさうに働いて居りましたが、瞬く内に奇麗に御掃除が出來上りました。これを見て居た私は實に子供達にとつて、得難き良習慣であると、心密かに歎美致しました。かくて御掃除が奇麗に濟みますれば、皆先生にさよならの御挨拶をして歸り監督の方はその後で歸へられました。

僅か二時半より五時までの短い間、而かも立ち代り入り代り、絶へず子供等の大多數は新陳代謝をして居るのですから、眞に遊ぶのは實に僅かの、時間ではありますが、尚この間に於て子供等の得る娯樂の他に、どれ丈の敎訓が與へられ、良習慣が養はれるかは、必ず私共の想像以上で御座います。

因みに火・木・土の三日庭を公開する時には成可く幼稚園の園兒は來ないやうに云つてあるのださうであります。

◎夏の經驗・見聞・所感

此の夏の間に經驗された事、見聞された事、又お感じになつた事、何なりと成るべく簡潔に認めて御投稿下さい、來る初秋の本誌上に掲載いたしたいと存じます。至囑々々

失明の光

木岡莞爾

大分縣の盲啞學校長として献身玆に十有餘年。盲啞の父たる森某が、其生涯のページを改め、今日に及べる經歷の一端を紹介して見やう。

日露の暗雲滿洲の野に漲り、山雨欲レ來風滿レ樓の時、紫電一閃召集令が下つた。彼は豫備陸軍二等獸醫として、國南の望を懷いて米國に在つたが、行李匆々歸朝して、振古未曾有の奉天戰に參加したのである。敵の砲彈は遠慮なく彼の兩眼を奪ひ、其生涯を暗黑ならしめた。然るに其れが大分に於ける一道の光明を發揮するの端緖となつたのである。約翰傳第九章第三節に見ゆる「彼に由て神の作爲の顯れんため也」であつた。

彼は澁谷の赤十字社病院に苦悶すること數月の間負債も積て五千七百圓となつたが、多くは他人の爲に責を負ふた十字架であつた。元來酒色は勿論煙草も喫まぬ位に謹嚴で「至誠を魂」とした人であつた。然し眞に溫い愛は無かつた。心に平和なく、訓慰師即ち其の靈に觸れた經驗も無いと云ふ有樣であつた。彼は生き甲斐のなき失明に、友の名譽の戰死を羨むだ。しかし患部は割らるゝやうに痛むそれに負ひ難き債務が鬼のやうに迫つて來る。身の置き所もない煩悶苦惱。所へｎ孃が特志看護婦として屢々之を慰問したのであつた。

一日ｎ孃は「森さん〱今日は元氣がない。如何なさつた」と問はれた。彼は空嘯いて「如何もしません」と答へた。ｎ孃が尙も語柔かに「森さん短氣を起してはいけません」と親切に之を勞はつたので、彼は初めて「面白くないから」と溜息續いて答へた。ｎ孃は誠意の結晶せる强い底力ある語で「森さん貴方の不幸は神樣が更に大なる光を與へて下さるのです」と愛が中心から迸つて、彼の心の深い處へ注ぎ込んだが、彼は未だ覺醒する場合に至らなかつた。

或る夜初更月は雲間に影を隱して、刻一刻寂しさを加へ來り。無常を告ぐる遠寺の鐘も。彼を無明の闇に葬り去らんと欲するに似たり。彼は苦悶の極「割腹々々」と點頭いて、劔は何處と手探りに尋ねたが、知らず手に觸るゝものがあるから、拾ひ上ぐれば、此は如何に一枚の花であつた。即ちｎ孃が心をこめて贈られたのであつた彼の人のこれ迄自分を慰め呉れしこと幾許ぞ。此失明の身も丁度根のなき花に同じ。しかし此身の現狀　花にも劣つて居る。ｎ孃の心は此の花に燕る心地ぞする。正しく神の愛の發露なるべしと感極りて、頑なる心も溶けんばかりに和いだ。玆に新たに轉機を見出して彼の生活は全く前日と其の趣を異にし、勤儉身を持すること十年、負債を悉く辨濟することが出來た。實に斯によれる淸き贈物は、自殺を思ひ止まらしめ。心の眼をも明かにして、大分の光となることを得せしめたのである。

□

赤子

宮澤操子譯

日當のよい窓際に肘を突きながら、慢然として、

煙管を啣へて居るジョンの側に、誰かが來て頻にり彼を誘惑して居る。

『ね、君！　こんな好い機會をはづすなんて、馬鹿ぢやないか？　こんな好い金儲けは又とありはしないよ。』

『而かも、君は今仕事もなくて、困つてる場合で丁度いゝぢやないか？　え、君！　一つやつて見ないか誰にもすぐに出來るよ、賤しい仕事ぢやなし、と云つて人聞きの惡い仕事ではない。相當の身分のある人や地位のある立派な人々でもして居るではないかさあ〳〵一時も猶豫して居る場合ではないのだから僕と一緒に來給へ、早く事を定めよう。』

と促して居る。ジョンは默然として之れに耳を傾けて居つたが、丁度其時薔薇色の頬をした彼の新妻が來て、彼の側によりながら、

『あなた！　衣服をかけて來る間、一寸此子を抱いて居つて下さいませんか？　今日は少し氣むづかしい方で御座いますよ。』

と表情に富んだ黑瞳で夫の顔を覗きながら出て行つた。ジョンは默したまゝ、赤子を膝に抱き取り、其丸々した顔を凝視めた時、赤子も父の顔を見守つてから云つた。

『汝の肉の肉、靈の靈、汝の播くを刈り、汝の導く所に我從はん、父よ我を導き給へ、我其後に從はん。』

ジョンは此聲を聞くや否や、彼の誘惑者に向ひ、一層聲を勵して、

『去れ！　とく〳〵去れ！　汝惡魔！』

彼の男は去つた。ジョンは自分の膝の上の赤子を搖りながら、守歌を口誦んだ。やがて妻がきて赤子を抱き取り、

『坊や！　坊や！　お父様に抱つこして戴いて、なぜそんなに泣くの？　こんないゝお父様に抱つこされながら、お前も大きくなつて早くお父様の樣な人にならねばなりませんよ。』

と云ひ含め、小さな聲で守歌を唄いながら出て行つた。

道

今しもグレート、シテイーに向つて旅立たうとして居る一少年を見送らんとて、一家の者は門口に出て別を告げて居ります。

『眞直な道を御出でなさいよ。』

と彼の母が云ふと、側なる幼き妹は、母親を慰める樣な口調で、

『お母樣、大丈夫! 御心配なさらなくとも、御兄樣は屹度道に迷ふ樣な事は、おありなさいませんわ』

『彼方へ行くには、あの道を取るが好い、そら向ふに見えるだらう山が? あの山を通つて居る嶮峻い道だ。』

と隅の方に居りし老人は彼方の山を指さしながら、云ひました。少年は老いたる人に接吻し、

『可愛いおぢいさん! けれど、御おぢい樣は覺えるより忘れるが早くてね。おぢいさん! 僕はそんな道よりも、こちらの眞淸水が、チヨロ〳〵と流れて居る小川の側を行くんです。あそこには美しい花も澤山咲いて居るし。』

と反對の方を指しながら、彼れは皆に別に告げ、新鮮なる朝の大氣が、穩かに且つ快き中を意氣揚々として出て行きました。滾々たる綠の草葉を踏みしめながら、朝露を帶びた其の上に、旭の紅の光を受けて、恰かも王の寶の室の樣に、赤く、青く、紫に堤の上を著色して居る。花を一つ一つ摘みては捨て摘みては捨てつ、空に囀る鳥の聲に聲打ち合せながら、何所とも知らず、辿り行きます程に、不圖彼の脚下の地が濕り、柔らかくなつて居るに、氣がつき周圍を見れば、草は長く生い茂り、彼の膝の上に攀ぢ上り、又は絡着き、踏む每に、黑檀の樣な水はブク〳〵と泡立ち、足は深く〳〵柔泥の中に陷り行くので、彼は始めて自分が、底知れぬ恐ろしき沼の中に居る事に氣が付きました。

『あゝ不思議! 始めはこんな所は見えなかつたが困つたなあ、行くには道がなし……こりやどうして

も後へ戻らなければ死んで終うは。」
と獨言しつゝ、非常なる努力もて、元來し道を堅い地へと泥深き所より、拔きてはさしつ、足を運びました。目を轉じて彼は、眼前にうねりうねつて限りもなく、碧天に聳えて居る屏風の様に重つた山の中に、白く匍ひ上がつて居る道を見つけました時、
「隨分險しい様に見ゆるがなあ……而し眞直ではあるし、又かわいて居るから屹度、あれが好い道に違いない、明日は此道を行かう。」
と獨り點頭ながら、疲れし足を引づり〳〵、日はとつぷりと暮れ、星が煌々と閃めき始めし頃、やつと家に着きました。
「おぢいさん！　今日行つた道は惡くて、到底も行かれませんでしたから、明日又出直します、今度こそはあの眞直な道を行きませう。」
「眞實？　まあそれが解つてよかつた。」
と隅に居つた老人は、嬉し氣なる面持ちで　かう云ひました、少年は老人に接吻し
「可愛いおぢいさん！　けれど覺えるより忘れる方が早くてね。」

和歌

辻村靖子

親の喪にこもりけるころ

摘みためし草も母子と云ふなれば慰めかねて春の野にいでゝ

落花

むらさきもの心閑にあるべきをふみよむまどに花のちるらむ

春の末つかた戸田の河原に遊びて

鵰の翼に似たる黒雲のいづこなるらむひばり鳴くころ

春の水ゆるく流れてましらほの田舟行くなり菜の花畑を

さくら草

むかしたれ種蒔きそめてとだ川の萓原にほひさくら草さく

さくらさう根こししにほりて歸りなばうらみやすらむ里少子らの

優勝者は果して人を愛し人を使役
　するみちをしるものなり
人を思ふなさけの露の下にこそいへ幸草もしげく生
ひけれ
人を怒り人をとがむる心こそやがて身をやく焔とを
しれ

　帝國大學構内の初夏

三つ二つ河骨さけり百尺のとちのさし掩ふる池の
上に

初　夏

おほつかな豆はかりなる桐の葉の入日の影といつな
りぬべき
五月晴のあすもしられて薔薇いろの夕の雲に月ほの
めきぬ
いねもせずさむるにあらぬ曉のまくら靜に雨の音を
きく
初生りの瓜は市にもいでにけるかひてさゝげしをや
のいまは亡き

○

き　く

『わが罪を悉許せ
祈毎我等はいへど
密なる罪愆汚
汝のみぞ識り給ふなれ。

いかなれば罪深き兒の
同胞が無禮怒りて
淺ましや早くも殲つを。
爲めにこそ死給ひける
いかなれば口には爲ぞ。

吳竹の君傷けし
ガルバリの丘にまして
其君が心を帶びて
衷心より祈りは發む――
天父、許したまひね

人皆の罪を許せば』――
衷心より叫ばしめてよ。
蟠まる誇りかの色
天神、憐たまへ。

斯迄に許し求むる。――
胸のうち燃ゆる心火の
己等が命救はむ
其君が祈の言葉

罪の兒の愆を許せと
十字架ゆ父に求めし
人皆の愆許すとき
『幾許の我等が罪を
人皆の罪を許せば』

（馬太 VI・12）

恐ろしの誘の時
其聲に耳傾けて
ともすれば禁示の途に
狭けれど直き途に
倶にませわが主我神。

黒影のひろごる時に
優くも恒にぞ保護る
震慴たる此世の幼兒が
傷けじと護りに守る

危ふきを安けくも過
御權と御稜光をもて
御誓の國。カナンの岸に
捧あぐるこの願言を
「惡きより救ひ出して。」

魔蛇我をぞ招ばふ
纖弱くも躓き倒れ
迷ひ入る我等が脚を
優くも導き歸し

なが子等の汝をし呼は
垂乳根が雨の腕に
走りよる樣にも似たり。
汝こそは我等が父よ

草枕旅路を終へつ
統べ給ふ—常磐堅磐に—
朝日兒をむへてしがな
末遂にとげしめ給へ。

（馬太 VI ‖ 13）

（以上 Helen Morion Burnside の Lord's Prayer より）

花の籠

白薔薇

或る人が、ふとした事で怪我を致しました。骨を挫いたために、痛いのを堪えながら、晴々した春の日を、幾週間も家に閉ぢ籠つてゐなければならないことは、なかなか辛いことでございます。そこで或る紳士は之を氣の毒に思ひまして、白薔薇をその人に持つていつて上げました。

その後幾月か經ちまして、紳士が薔薇のことなどは忘れて了つた時分、その病氣の人から一通の手紙が參りました。それはかうでした。

「あなたがいつぞや、私へお持ち下さいました白薔薇は、まだ私の思ひ出に匂つて居ります。」

半年も經つた白薔薇がまだ匂つて居るなんて、どうしてでせうか、子供諸君。半年保つ位ならば一年もちませうし、まだ〳〵その上長く保ちませう。もしもその紳士が、その薔薇を胸に挿すとか、卓の上

の花瓶に挿したのでしたならば、その花は程なく棄てられて了つた事でせう。紳士は病人へそれをあげた計りで、それは幾月も萎れなかつたのです。まだまだ長く咲いて居ませう。なぜならば病人はその手紙に「まだ私の思ひ出に匂つて居ります」と書きました。ですからその人の思ひ出がある限りは、匂つて居ませうし、又思ひ出といふものはいつ迄もあるものですから。

善いものを長く保つて、又それをいつ迄も美しく保つには、これがまことに善い方法でございます。子供諸君は花でなくても、澤山かうして用へるものがおありになります、即ち、もし私達が自分の爲に保つておくならば、すぐだめになつて、失くなりますけれども、何か愛のしわざに用ふ時は、いつまでも〳〵匂つて居て萎むことのないものがあるのでございます。（松葉子）

見・聞・想

この「見・聞・想」欄は何にても見た事聞いた事思つた事何に限らず讀者各位の御投稿を歡迎して掲載いたしたいと存じます。どうぞ如何なる大事件も如何なる小事實も耳目に觸れたもの心に浮んだこと續々御投稿を願ひます。勿論誌面の都合がありますから、載否は編者に御任せ下さい。

編輯係

隨感

正子

一日母の御供をして、或家を訪問しました。而して其家の主人と母との對話に、聞くともなしに耳を傾けて居りましたが、話が段々佳境に入るにつけ、ふとその家の主人の口より「女子と云ふ者は何故物を整然と片付けることを好まないのだらう、宅ではどんなに言つても部屋にかぎらず何處をも片付ける事をしないで困る。」と云ふ言葉が漏らされたのを耳にしました。私はこれをきいた時婦人に對して侮辱を與へられた樣に感じましたが、これが端緒となつて、沈默て座して居る間、いろ〳〵と一人心の中に思ひの糸を辿つて居りましたが、眞實に物事を整然と秩序よく片付ける時には氣もすが〳〵しくなりこれを見る人々にも快感を與へる事が出來るのであります。

夏の夕など例令狹き部屋にても、よく整頓して掃除をなし、又庭は奇麗に掃き清め、打水などをして、軒々しのぶの風鈴でも吊し置く時は、誠に心も靈も新鮮になり、其處にて讀書するにもせよ又家族打寄り四方山の話をするにもせよ、非常に爽快な心地が味はれるものであります。殊に一日中、外に出て冷淡な社會の激浪と戰ひ、ほと〳〵

疲れ果てゝ歸へる父、夫其の他の家族にどれ丈の快感を與へ、如何に疲勞や、外で受けた不快の念などの全く一掃し去られ、且明日の活動のため新鮮なる勇氣が與へられるものであるか、一日中家の中にある者の想像以上で御座います。　く社會の表面に出て働く處の私共の家族を、暗々裡の内に鼓舞し、其の與へられし使命を全うせしめると否とは、私共聞く家の内にある婦人の掌中にあつて、其の責任は決して輕いものではありません。

凡そ、物を整頓して置くと云ふ事は、唯爽快な感が與へらるゝのみならず、又仕事を致す時にも容易に迅速になす事が出來るものであります。例へば同じ勉强をするにも、机の上に紙屑、反古、日誌、手帖、本などが亂雜に散らばつて居る時は、どれから手を付けて好いのか、どれが今仕樣として居る勉强に必要なるものか判らず、その内に時間を空費し遂に不快の感に襲はれ、切角仕樣と思つた其決心も鈍り、いやになつて仕舞ふものでありますが、これに引きかへ凡てを秩序よく整理しておく時は、着々と進行し少しも倦怠を覺えず、又短時間の内に多くの用を辨ずる事が出來るものであります。これは誰しも既に經驗のある事と思ひますが、何事をなすにも同樣の事を經驗いたします。然し殊に細微い仕事の多い事務などを、取扱ふ時は痛切にこれを感ずるのであります。

奇麗に片づけ整頓して置くと云ふ事は、上述の樣な外見的の場合のみでなく、私共の考へを内的の事に轉じても、同じくこれを感ずるのであります。キリストは、其の山上の垂訓の内に、其他處々に神の宮であるわれ〳〵の心を常に整頓し、淸潔にたもち、主のために用意し置くべき事を教へて居りますが、實に私共は絕へず其心より凡ての淫念邪慾を取去りて、これを淸くし、其中に主を宿し置くやうに心掛く可きてはありますまいか。

彙報

第十回夏期修養會

例年多大の効果を收め來つた日本基督教女子青年會夏期修養會は、今年も來る七月廿一日より同廿八日迄、相州横須賀在大津に於て其第十回の會合を催します、其の順序は次に記す通りであります。本會は白砂青松の地に同信の友と親しみ、先輩の教導の下に靈の向上を計らうとするのが本會の目的であります。回を重ねるに從つて來會諸姉との友誼を加へ、共に胸襟を披いて信仰を强うし來つた幹部一同は、再び多大の期待をもつて諸姉の來會を望むで居ります。信者、求道者を問はず、會員、會員ならざるの別なく、基督に依つて眞の生活を求めらるゝ多數の婦人の出席を切望致します。

第十回女子夏期修養會順序

格言　エホバを俟望むものは新なる力をえん、又鷲の如く翼をはりて上らん、走れ共疲れず

歩め共倦まざるべし。イザヤ書四十〇三十一

我が兄弟よ主及其大なる力に頼りて剛健なるべし。エペソ書六〇十

○七月二十一日(火)夕

(午後七時) 開會式　女子青年會中央委員長　井深花子
同　中央委員　小此木松子

○二十二日(木)午前

(自五時半) 早天祈禱會

(自八時半至九時半) 聖書の組

(一) 求道者の組　傳道義會主事　外村義郎氏

(二) 默示錄の研究　聖公會神學院教頭　今井壽道氏

(三) 以賽亞書　豊島岡教會牧師　横田貞治氏

(四) 聖書中の人物　聖マリヤ館主任　長谷川喜多子

(自十時十五分至十一時半) 講演

我弱き時强し　文學士　石原謙氏

○同　午後

(自七時至八時半) 協議會

○二十三日(金)午前

(自八時半至九時半) 聖書の組―同前

(自十一時十五分至十一時半)講演

未定　法學博士　鵜澤總明氏

○同　午後

(二時) 親睦會

(自六時半至七時十五分)夕陽會

(自七時半至八時半) 組會

○二十四日(土)午前

(自五時半) 早天祈禱會

(自八時半至九時半) 聖書の組―同前

(自十一時十五分至十一時半)講演

靈能　救世軍心靈特務　金森通倫氏

○同　午後

（自七時至八時半）協　議　會

○二十五日（日）午前

（自九時）讃　美　禮　拜

（自十時）日　曜　禮　拜

說敎（信仰生活に於ける軍國主義）　今井壽道氏

○同　午後

（自七時至八時半）講　演

基督に依て得る新しき力　横田貞治氏

○二十六日（月）午前

（自五時半）早天祈禱會

（自八時半至九時半）聖書の組—同前

（自十時十五分至十一時半）講　演

東京芝敎會及兩國敎會牧師

祈禱の性質と價値　星野光多氏

○同　午後

（自七時至八時半）講　演

生物學上より見たる婦人の一大使命

實業家　高野重三氏

○二十七日（火）午前

（自八時半至九時半）聖書の組—同前

（自十時十五分至十一時半）講　演

東京神學社敎頭

基督敎生活　柏井園氏

○同　午後

（自六時半至七時十五分）夕　陽　會

（自七時半至八時半）組　會

○二十八日（水）午前

（自五時半）早天祈禱會

（自八時半至九時半）聖書の組—同前

（自十時十五分至十一時半）講　演

献身論　　救世軍大佐補　山室軍平氏

〇同　午後

（七時）送別會

（注意）集會のひま／＼には諸先生方に成可く面談を乞ひて個人的教示に預からるゝ樣なされなば有益ならん。

起床六時、朝飯七時、晝飯十二時半、夕飯五時半、消燈十時。

會期　大正四年七月二十一日（水曜日）夕より七月二十八日（火曜日）夕迄。

來會者は二十一日午後迄に御出下され二十九日朝まで御滯在を願ひます。

會場　神奈川縣横須賀大津村勝男館。

道筋　横須賀驛にて下車しそれより凡て一里計を人力車で行きます。又停車場より凡そ半里歩めば、田戸といふ處から乘合馬車の便もあります。二十一日、二十二日の兩日は皆樣の爲に手荷物を運搬する人夫を停車場に出して置きます。

汽車賃　東京驛より横須賀迄片道　六拾五錢

新橋驛より片道　六拾貳錢

横濱より片道　參拾八錢

人車賃　横須賀驛より勝男館まで　參拾五錢位

荷物一箇に付五錢位

乘合自働車　參拾錢

會費　金壹圓（一日分拾五錢宛）

滯在費　金八拾錢（一日分）金六拾錢（一泊二食）金貳拾五錢（一食）

金五圓六拾錢（全七日間分）

二十一日午後より二十九日朝まで滯在の方は金六圓貳拾錢

（但病氣或は急用にて退會するものゝ外食費會費共返金せず）

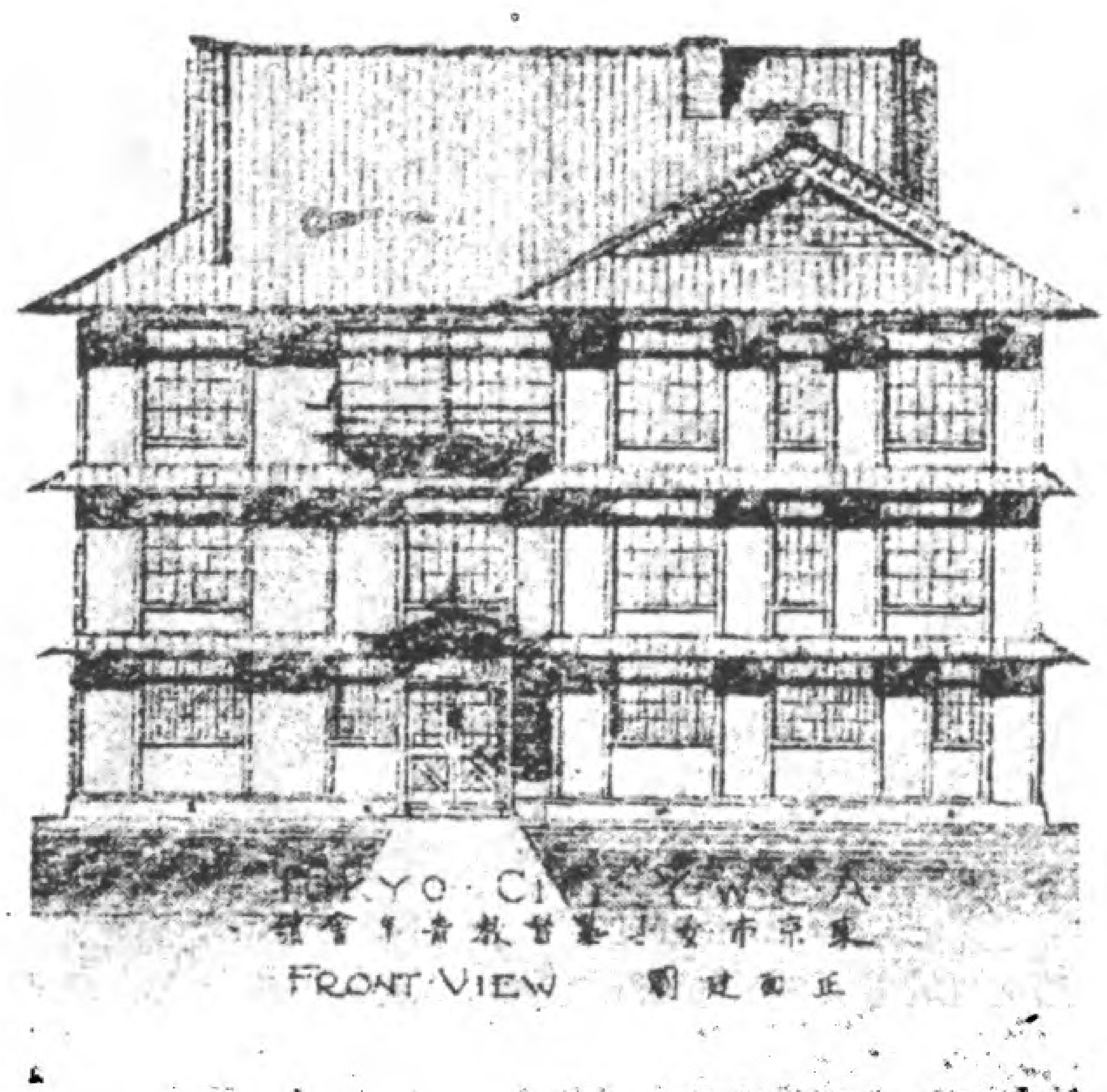
携帶品　寢具一切は用意してありますが敷布、枕布、海水浴衣等は各自必ず携帶を願ひます。

申込　七月十七日(土曜日)迄に日本基督教女子青年會本部へ願ひたし。

聖書の組案内來會者は可成前以て何れの組に出席せんかを先生方か或は御友達と御相談なされて、豫め選定せられん事を願ひます。又一校より數人の代表者があれば可成く各自異りし組に御出席なさる様に御心掛を願ひます。

◉東京女子青年會館工事

豫ねて誌上にも度々報ぜられました通り、東京基督女子青年會の經營による東京女子青年會館の建築工事も、漸く進捗して、最早工事の七分通りは出來上り外部は大抵終りまして、これから內部の造作に取かゝるのであります、多分豫定の通りに來る九月上旬には全く竣工することであらうと待ち望んで居ります。御承知の通り位置は神田區北神保町十四番地で、神保町の停留場から二丁足らず順天中學の角を入つて其の向側。東洋家政女學校の隣で御座います。敷地は百八十坪で、建物は坪數は百十坪餘の三階造りであります。そして階下は體操場兼集會場、臺所、洗濯場、風呂場、物置其他で二階に事務室、食堂、應接室、讀書室、來客室、割烹室等を設け三階には幹事事務室、委員室、和風居間を設け、其の一部分は寄宿舍とし、十六人を定員として八個の室應接室、舍監室、臺所、食堂を備へる設計になつて居ります。そして女子青年會には既に女子學生のために二個所の寄宿舍を有つて居りますので、こゝは既に職業に從事し居らるゝ婦人のためにする方針であります。



竣工の上は東

京基督敎女子青年會の事務は勿論此の會館内に於て執る事になるのですが、尚ほ聖書の組、英語の組讃美歌の組なども、すべて此處に開くやうになると思ひます。其他各種の稽古や運動や遊戯のためにも各室の設備がありますから、それ〳〵適當の方法によつて使用されることが出來るやうになると存じます。從來婦人の會合のためには適當な塲所がなくて誰も遺憾に思つて居られる所でしたが、それ等に對しても出來るだけ便宜を圖る事が出來ませうと思ひます。あらゆる善事のために此の會館を使用し得ることは、婦人社界の事業計畫などのためにどれ丈け仕合であるか知れないと存じます。

此の會館の與へられるに至つたことは、多年多くの方々の御祈り下さいましたのと世間同情の方々の多大なる御賛助の結果であらうと存じます。實に感謝に堪へないのであります。そして建築に要する五萬圓の内既に寄附を受けまた寄附の豫約を下されたた高が四萬圓に達して居まして、詰り一萬圓の不足を致して居るのであります。これは現に寄附募集中で御座います。私共會員は會館を與へられる事を感謝すると同時に此の方面にも多分の助力をいたさねばならぬ當然の義務があると信じて居ります。此の不足資金募集の一方法として、女子青年會は建築正面圖を表紙に刷込んだ小さな受取帖を作りましてこれを聖書の組の方はじめ、一般會員にも分けまして小口の寄附金募集を始めて居ります。寄附高は一口十錢以上いくらでもよろしいのであります。塵も積れば山となると申しますが、これは誰れにも出來て、其の手數のかけ次第で、存外の集金高を纒められることゝ思ひます。本當によい思付きと存じますお互に會員として奮て御盡力いたしたいものと思ひます。（一會員）

◉東京基督女子青年會

●●

▲總會　五月二十九日納戸町寄宿舍に於て第九回總會を開く來會者百三十名今西夫人の司會にて會務及

會計報告、委員改選、協議等あり、それより講演に移り、安部磯雄、金森通倫兩氏の有益なる講話、聖書組の英語讃美歌等あり來會者一同談笑の中に會を終りたるは五時なりき。

▲記者招待會●●●●　六月二日都下諸新聞雜誌記者二十餘名を招待して女子青年會事業並に新會館を紹介すミスター、ケネデーの挨拶ありミス、マシウ青年會について述べ津田梅子姉來會者の質問に答へられ懇談の内に散會せり。

▲好友園開園紀念式●●●●　六月五日同園に於て擧行す、父母兄姉の來會せるもの十數名來賓數名幼兒の遊戲唱歌數番あり主任大槻姉の報告等あり來會者には外村義郎先生の御講話を聞かしめたり來會者中には本園卒業生の笑顏も見受けられ嬉しかりき、同園には數週前より一週間に三度午後庭園を小學校兒童の爲に開放して遊ばしめ女子英學塾の卒業生數姉之が監督の任に當らる。

▲特別委員會●●●●　六月十一日本會に於て委員會を催し新會館資金其他重要の件を協議したり。

▲會館資金小口募集　神田區北神保町十四番地に新築中なる會館資金不足補充のため、今回其の募集の一方法として小口募金を開始したり。これは新築會館正面圖を表紙に刷出したる小形受取帖を作り、各會員にそれを渡し置き誰人よりなりと一口金十錢以上の寄附を願ふ仕組にて、既に聖書の組其他有志會員はそれ〲募金着手中なり。有志の方は是非これによつて多少とも資金の募集に盡力せられんことを希望す。その受取帖は事務所へ一報あれば直に屆けることになり居れり。

◉徳島女子青年會　本會員數は一定いたさず毎例會、拾數人出席致し候。集會は金曜日午後三時より五時迄には、仕事會と話會とをいたし候。時々は名士の御講話を願ひ、ある時は幻燈會を催し候ことも之れあり候。春秋には遠足會、一年に一度バザーを開き候。會員は集會の時適宜に五十錢か十錢かを寄附いたす事に相成りをり候。其他は別に前と變

りし事も御座なく候。

●ウヰルミナ女學校青年會　去る三月に三十一名の舊い會員を御送り致しましたが、新らしく六十名の多くの新會員を與へられました事を誠に喜ばしく存じます。當校の青年會に於きましては過ぎし四月十日に役員を定められました。會長、佐伯靜枝。會計近藤政子。三谷久子。記錄書記磯崎ふく子。通信書記田口かつ子。右の通りで御座います。其日役員は靜かな一室に青年會の働きにつきて相談又は他の委員（祈禱員、傳道員、訪問員、親睦員、慈善員、音樂員）等定めました、終りに熊澤先生より益々青年會の進歩についての御希望を述べられました。四月十五日午後二時より新しい會員の歡迎會を開催いたしました。後親睦會を催して各々の級は新しい會員を迎へるために、いろ／＼の趣向をこらし一時間の樂しい時で御座いました。五月四日折しも大阪共同傳道の最中、米國プリスビテリアン教會の傳道の監督者スピヤー博士は東洋視察特にフイリッピン諸島の視察のために來られしを幸ひ當青年會に御招きして、御講話を願いました。一同云ひ得ぬ喜悅と希望とを與へられて其の場を散じました。（田口かつ子報）

●東京英和女學校青年會　青葉かげ慕はしう相成候折から本部の皆々樣にはいよ／＼御清榮の御事と奉賀上候。本會も及ばずながら天助を仰ぎつゝ會員一同熱心に勵み居候間御喜び下され度候。久しう御報告も聞え上げ參らせず候ひしが、去る三月新たに御會に加入仕り候ひしより會員は全力を以て會の發展に盡力致し居り候。每月一回水曜日に例會を開き事務を整理し又本會事業分擔の各部一回宛の集會を開き、或は委員自ら傳道的講話をこゝろみ或は校內教師外の名士に宗教的講話を依賴致し申候、殊に社交部は三月下旬に卒業生送別會、四月上旬には新入生歡迎會、五月には誕生日會を開催仕り候又矯風部の働として東京の三病院を訪問し二百六十名の患者を見舞ひ、生徒の寄附になりし花束を賜り

いさゝか喜を分ち候心地致されて嬉しう覺え申候。
來る六月二十五日夜開催の本校文學會の折には青年會バザーを開かんとして一生懸命に準備致居り候。
扨誠に些少には候へども、本部寄宿舍增築のため本會より金拾圓、及び本會監督の下に有之候。少年禁酒軍より金五圓都合金拾五圓御寄附申上候。何卒御受納下され度候。

消息

○ベーカー博士夫妻　長らく日本に滯在中なりしベーカー幹事の御兩親は六月中旬神戸より出帆シベリヤ線にて歸米の途につかる。

○ミス、エリス　女子青年會中央委員なる同孃は六月下旬横濱出帆歸國せらる。

○ミス、レーカン　六月十一日より一週間餘り輕井澤に靜養され同二十一日歸京。

○渡邊つが子　渡邊百合子姉の令妹なる同姉は五月下旬東京富士見町教會にて受洗。

○長田いし子　五月下旬富士見町教會にて受洗。

○森田松枝子　螢雪の功空しからず今回目出度東京神學社を卒業せらる。

○ミス、ホング　幹事ミス、カフマレの御知人にて今回カナダより本國なる支那福州への歸路本部に立寄られ、東京青年會にては同姉のため數名の支那婦人を招待せり。

○會友申込（本部報告）

（普通）澤口つや　羽田野てる

（維持）ミセス、エイレス　ミス、リヨツク
ミス、ギフオード　ミス、プール
ミセス、トイスラー　ミス、フアニング
ミス、ウワード　ミセス、プース
ミス、アイ、エム、ワード　ミス、カウチ
ミス、ウヰリヤムス　ミセスヒータルス

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓也

澤口つや（大正三ノ十二―四ノ十一）
羽田野照子（大正四ノ五―五ノ四）
岡本翠（大正四ノ四―五ノ三）
鐙谷夫人（大正三ノ十一―四ノ十）
守永すゞ（大正三ノ十一―四ノ十）
牧野クラ（大正三ノ十一―四ノ十）
四宮みき（大正四ノ五―五ノ四）
渡邊とよ（大正　ノ五―五ノ四）
岩倉よね（大正四ノ三―五ノ二）
中島妙子（大正四ノ一―四ノ十二）

金貳圓也

ミセス、エイレス（大正四ノ六―五ノ五）
ミス、エーカック（大正四ノ六―五ノ五）
ミス、アイ、エム、ワード（大正四ノ六―五ノ五）
ミス、ホイテ（大正四ノ六―五ノ五）
ミス、リヨツク（大正四ノ六―五ノ五）
ミセス、オービ（大正四ノ六―五ノ五）

ミセス、スミス（大正四ノ六—五ノ五）
ミスカウチ（大正四ノ六—五ノ五）
ミス、ルーテル（大正四ノ六—五ノ五）
ミセス、プース（大正四ノ六—五ノ五）
ミス、パミリー（大正四ノ六—五ノ五）
ミス、ヒユース（大正四ノ六—五ノ五）
ミセス、ライシヤワー（大正四ノ六—五ノ五）
ミセス、ゴルボルド（大正四ノ六—五ノ五）
ミスヤング（大正四ノ六—五ノ五）
ミス、ギフオールド（大正四ノ六—五ノ五）
ミセス、ハインド（大正四ノ六—五ノ五）
ミセス、ピータルス（大正四ノ六—五ノ五
ミス、ゲルハード（大正四ノ六—五ノ五）
ミセス、オールチエーン（大正四ノ六—五ノ五）
ミス、ラング（大正四ノ六—五ノ五）
ミセス、フヒッシヤー（大正四ノ六—五ノ五）
ミスホルシー（大正四ノ六—五ノ五）
ミス、ロビンソン（大正四ノ六—五ノ五）
佐田文代（大正三ノ十一—四ノ十）

金參圓也
ミセス、ダニグ（大正四ノ六—五ノ五）
ミス、フアニング（大 四ノ六—五ノ五）
ミセス、オールズ（大正四ノ六—五ノ五）
ミス、フレッツ（大正四ノ六—五ノ五）

金五圓也
ミスウオード（大正四ノ六—五ノ五）
ミセス、パミルトン（大正四ノ六—五ノ五）
ミセス、ピーク（大正四の六—五ノ五）
ミス、ウヰリヤムス（大正四ノ六—五ノ五）

金四圓也
ミス、エリス（大正四ノ六—六ノ五）

○雜誌女子青年界代金領收

金七拾錢
荒川眞子（大正四ノ三—五ノ二）
上野俊子（大正四ノ一—四ノ十二）
鹿股ふみ（大正四ノ六—五ノ五）
田中きわ（大正四ノ四—五ノ三）
中村玉子（四月號十部代）
清水みづゑ（大正四ノ八—五ノ七）
平沼さく（大正四ノ四—五ノ三）
阿由葉郁子（大正四ノ一—四ノ十二）
杉森うめ（大正四ノ一—四ノ十二）
ミス、ツレセー（大正四ノ一—四ノ十二）
太田とよ（大正四ノ四—五ノ三）
戸谷清一郎（　）

金壹圓也 吉田晴治（大正四ノ三—五ノ二）
金拾四圓九拾六錢也 東京女子青年會（大正四年五月分）
金四圓六拾九錢也 共立女學校（大正四年五月分六十七册代）
金七拾九錢也 中村玉子（大正四年三月號十册代）
金壹圓四拾錢也 ミス、ソール（大正四ノ二—五ノ一二部宛）
金貳圓十錢也 山下千代（大正五ノ一—八ノ一）
金壹圓四拾錢也 加茂絢子（大正九ノ三—七ノ二）
金貳圓拾錢也 札幌女子青年會（大正三ノ八—四ノ七一部 同三ノ十一—四ノ十二部宛）
金貳圓四拾五錢也 一條琴子（三十五册代）
金參拾五錢也 阪本花代（大正四ノ五—四ノ十）
金六圓〇九錢也 高折かなを（大正四ノ三月號二十册代 四「五月號各二十一册代 同六月號二十五册代）

會告

本誌次號は例年の通り來八月發行の第十二巻第八號と第九號を合併いたし、夏期修養會講演及記事、其他有益にして趣味ある內容を以て九月一日に發行致候、此段讀者各位へ謹告仕候　以上

七月一日

女子青年界編輯係

National Committee

Headquarters. 12Tamachi Sanchome, Ushigome, Toky

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,

Active Member World's Committee

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, General, Tokyo
Miss Mary Page, Associate, Tokyo
Miss Emma Kaufman, Associate, Tokyo
Miss Mary Baker, General, Yokohama

本誌定價

一部(郵共)	金七錢
一ケ年分	金七拾錢
海外	金拾壹錢
	金壹圓廿錢

廣告料

一頁	金六圓
半頁	金三圓五十錢
四分ノ一	金貳圓
一行	金貳拾錢

大正四年六月廿八日印刷納本
大正四年七月一日發行

發行所　東京市牛込區田町三丁目十二番地　日本基督敎女子青年會
編輯兼發行人　東京市牛込區田町三丁目十二番地　河井道子
印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　東京市芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

July, 1915

The annual Summer Conference of the Young Women's Christian Association will be held at the Katsuokan, Otsu mura, near Yokosuka, Kanagawa Ken, from Wednesday evening, July 21 to Thursday morning, July 29. Attendance is not limited to Association members, but all are cordially invited. Our foreign friends are also welcome if they are willing to accept Japanese food and accommodations. The registration fee is one yen, and board eighty sen per day. Applications should be sent to the national headquarters, 12 Sanchome, Tamachi, Ushigome, Tokyo, not later than Saturday, July 17. Bring sheets, pillow-cases, bathing suits, etc.

The motto of the conference is found in Isaiah 40 : 31, " They that wait for Jehovah shall renew their strength ; they shall mount up with wings as eagles ; they shall run, and not be weary ; they shall walk, and not faint" ; and Ephesians 6 : 10, " Be strong in the Lord, and in the strength of his might."

The program is prepared as follows :

Wednesday, July 21,	7 : 00 P. M.	Opening, Mrs. Ibuka, Miss Okonogi
Thursday, July 22,	5 : 30 A. M.	Sunrise prayer-meeting
	8 : 30– 9 : 30	Bible classes
	10 : 15–11 : 30	Mr. Ken Ishiwara, " Strength in Weakness "
	7 : 00– 8 : 00	Association meeting
	8 : 30–	Delegation meetings
Friday, July 23,	8 : 30– 9 : 30	Bible classes
	10 : 15–11 : 30	Dr. Somei Uzawa
	2 : 00–	Party
	6 : 30– 7 : 15	Sunset meeting
	7 : 30– 8 : 30	Delegation meetings
Saturday, July 24,	5 : 30 A. M.	Sunrise meeting
	8 : 30– 9 : 30	Bible classes
	10 : 15–11 : 30	Mr. Tsurin Kanamori, " Spiritual Power "
	7 : 00– 8 : 30	Association meeting
	8 : 30	Delegation meetings
Sunday, July 25,	9 : 00	Song service
	10 : 00	Church service, Rev. Judo Imai, " Militarism in Spiritual Life "
	7 : 00	Church service, Rev. Sadaji Yokota, " New Power in Christ Jesus "
Monday, July 26,	5 : 30	Sunrise meeting
	8 : 30– 9 : 30	Bible classes
	10 : 15–11 : 30	Rev. Kota Hoshino, " Character and Value of Prayer "
	7 : 00– 8 : 30	Mr. Juzo Kono, " Woman's Great Mission "
	8 : 30	Delegation meetings
Tuesday, July 27,	8 : 30– 9 : 30	Bible classes
	10 : 15–11 : 30	Rev. En Kashiwai, " Christian Life "
	6 : 30– 7 : 15	Sunset meeting
	7 : 30– 8 : 30	Delegation meetings
Wednesday, July 28,	5 : 30	Sunrise meeting
	8 : 30– 9 : 30	Bible classes
	10 : 15–11 : 30	Colonel Gunpei Yamamuro, " Self-Sacrifice "
	7 : 00	Farewell meeting

The Bible classes are : Beginners, Mr. Yoshiro Tonomura ; Revelation, Rev. Judo Imai ; Isaiah, Rev. Sadaji Yokota ; Miss Kita Hasegawa.

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し獻身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方の巡廻視察をなさしめ本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し德性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍の設備有り將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　毎年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓導につとむ

中央委員

委員長　井深花子

副委員長　岡見惠子

記錄書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員　津田梅子(東京)

エ、ピ、ウエスト(東京)

鈴木歌子(東京)

小此木松子(東京)

長谷川喜多子(東京)

サラ、エリス(東京)

イ、タレメント(東京)

山川千代子(横濱)

廣岡淺子(大阪)

ケー、トリストラム(大阪)

エム、エフ、デントン(京都)

佐伯小糸(京都)

松田道子(京都)

エス、ソール(神戸)

上代淑子(岡山)

役員

總幹事(本部)　河井道子

同　(同)　エ、シー、マクドナルド

書記(同)　アール、レーガン

總幹事(東京)　エム、エル、マシウ

特志幹事(同)　エム、ペーデ

特志幹事(同)　イー、アル、カウフマン

幹事(横濱)　エム、ペーカー

事務員(本部)　河口正子

事務員(東京)　大呑久子

旅行者の友係　林さ　松崎ふ滿喜

幼稚園主任保姆　大槻愛子

幼稚園助手　永野睦子

寄宿舍監(第一)　門倉ふじ

寄宿舍監(第二)　大西絹子

宿泊所取締　ミス、ダルトン

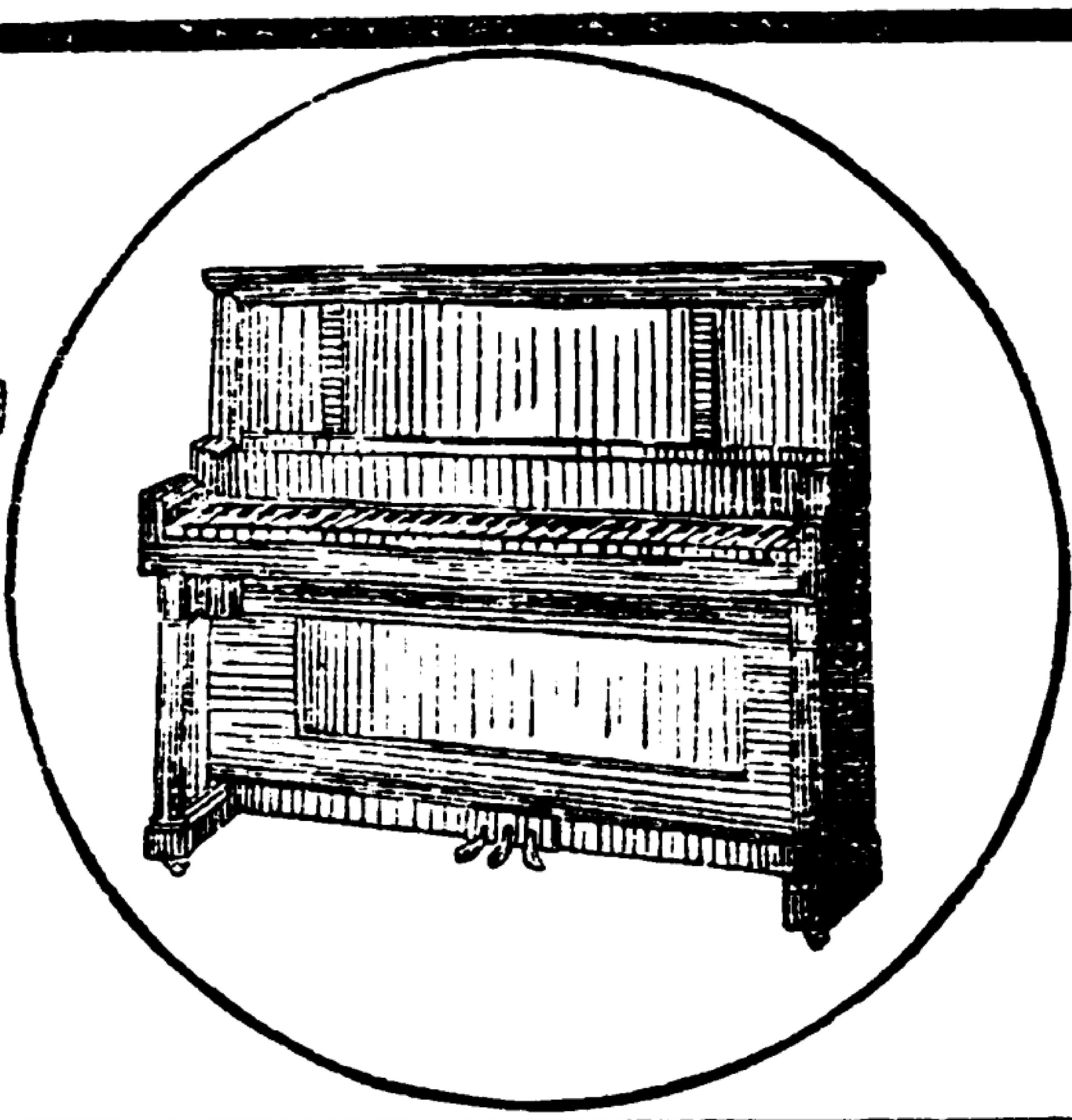
東京市牛込區川町三丁目十二番地
日本基督教女子青年會本部

日本基督教女子青年會支部及寄宿舍其他位置

東京基督教女子青年會	東京市麴町區三番町四一
廣島女學校青年會	廣島市上流川町
同志社女學校青年會	京都市上京區今出川通
プール女學校青年會	大阪市西區川口町一二
ウキルミナ女學校青年會	大阪市東區玉造
札幌女子青年會	札幌區北四條北星女學校内
宮城女學校青年會	仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會	宇都宮市二條町七二
フエリス女學校青年會	橫濱市山手町一七八
共立女學校青年會	橫濱市山手町二一二
女子英學塾青年會	東京市麴町區五番町一六
女子學院青年會	東京市麴町區上二番町三三
青山女學院青年會	東京市青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會	東京市小石川區指ケ谷町八四
神戸女學院青年會	神戸市山本通四丁目
金城女學校青年會	名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會	盛岡市内丸タピング方
德島女子青年會	德島市富田浦仲町ミスリツン方
橫濱女子青年會	橫濱市本町五一
捜眞女學校青年會	神奈川一本松
弘前女學校青年會	青森縣弘前市代官町
東洋英和女子學校青年會	東京市麻布鳥居坂八
梅花幼稚園保姆傳習所青年會	信州上田丸堀
第一寄宿舍	東京市牛込區納戸町四五
第二寄宿舍	東京小石川區水道町廿八安藤坂
好友園(幼稚園)	東京市小石川區金富町五七
旅行者の友事務所	東京市本郷湯島天神町一ノ廿四

ピアノ・オルガン







上流家庭の流行

として近來西洋音樂熱が熾になつて來ましたこれは鎌田大學總長の言はれた如く「日本音樂は單純で趣味が偏して居つて時世に伴はぬため根底のある而して幾千年來比較研究された結晶藝術である西洋音樂が當然替りつゝあるのであります此の秋に

日本一の **ヤマノピアノ**

の出現は、將に我樂界の福音であります音樂學校のショルツ教授が初めて彈奏して日本に於て第一番に贊辭を寄せられたのは單に本店の光榮であるのみならず正しく斯界の前途に對し一層の祝福であると信じます。

西洋樂器一切

新版目錄送料貳錢御送付次第進呈可仕候

(電話京橋二二九八)　松本樂器合資會社改め　(振替一三五〇五)

東京 **山野樂器店** 銀座

女子青年界第拾貳巻第七號

大正四年六月廿八日印刷納本大正四年七月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可